

報道関係各位
プレスリリース

中之島香雪美術館開館記念展 「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」

公益財団法人香雪美術館は2018年3月21日、大阪・中之島の超高層ビル「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」4階に、中之島香雪美術館を開館します。

香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平(1850～1933)の収集した日本と東アジアの古い時代の美術品を収蔵しています。開館45周年を記念し、神戸・御影の本館に次ぐ2番目の美術館を大阪に開設して、コレクションのさらなる公開と普及を進めることとなりました。

開館から1年間は、開館記念展「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」を開催。村山が収集した美術品から、重要文化財をはじめとする選りすぐりの作品300点余りを5期にわけてテーマ別に展示し、コレクションの全貌を紹介します。都心のビルにありながら「市中の山居」を目指した静謐で格調ある新しい美術館の空間で、珠玉のコレクションをお楽しみください。

また、神戸・御影の本館では、中之島香雪美術館開館を記念してコレクション展「刃金の美 刀剣・甲冑名品展」を3月1日から開催します。村山の美術品収集の出発点である刀剣コレクションに焦点を当てます。あわせてご覧ください。

中之島香雪美術館

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| I 美術を愛して | 2018年3月21日(水・祝)～4月22日(日) |
| II 美しき金に心をよせて | 2018年4月28日(土)～6月24日(日) |
| III 茶の道にみちびかれ | 2018年7月7日(土)～9月2日(日) |
| IV ほとけの世界にたゆたう | 2018年10月6日(土)～12月2日(日) |
| V 物語とうたにあそぶ | 2018年12月15日(土)～2019年2月11日(月・祝) |

※毎週月曜休館(祝日の場合は翌火曜日、ただし5月1日は開館)、年末年始休館

会場 中之島香雪美術館(大阪市北区中之島3-2-4、中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階)

主催 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社、朝日放送

香雪美術館(神戸・御影)

コレクション展「刃金の美 刀剣・甲冑名品展」 2018年3月1日(木)～4月8日(日)

※毎週月曜休館

会場 香雪美術館(神戸市東灘区御影郡家2-12-1)

主催 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

中之島香雪美術館開館記念展 「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」

I 美術を愛して

香雪美術館の所蔵品の多くは、朝日新聞社の創業者・村山龍平（1850～1933）が収集した日本や東アジアの美術品です。国指定重要文化財19点、重要美術品23点をはじめ、時代や作家を代表する作品も数多く含まれます。1年間・5期にわたって開催する中之島香雪美術館開館記念展では、この村山コレクションの中から約300点を選び、これまでまとまった形で紹介されてこなかったコレクションの全容を初めて公開します。

第I期展「美術を愛して」では、村山龍平と特にゆかりの深い名品やエピソードが知られる作品を中心に約60点を紹介します。オープニングを飾る本展で、コレクションのエッセンスにふれるとともに、「美術を愛して」収集を進めた村山の想いを感じ取っていただければ幸いです。



会 期	2018年3月21日(水・祝)～4月22日(日) 月曜休館
開館時間	午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
料 金	一般900(700)円、高大生500(350)円、小中生200(100)円 *()内は前売り(一般のみ)、20名以上の団体料金 *前売り券は3月20日まで香雪美術館(御影本館)、中之島香雪美術館、 フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。
主 催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社、朝日放送

*開館記念展(I～V期)の主要作品約180点のカラー図版と解説を収録した図録をミュージアムショップで販売。1部2,500円(税込み)。

本展のみどころ

展覧会の冒頭を飾るのは、美濃「志野茶碗 銘 朝日影」(桃山時代、17世紀)。村山龍平が終生こよなく愛した名碗として、象徴的に展示しています。

伊勢田丸藩(現在の三重県度会郡玉城町)の藩士の家に生まれた村山は、若いころから刀剣研究に熱心で、美術品収集も刀剣類から始まりました。重要文化財「太刀 銘 吉家作」(鎌倉時代、13世紀)は、古雅な作風で知られる、コレクションを代表する名刀です。

明治12年(1879)、28歳で朝日新聞の創刊に携わった村山は、多くの寺社文化財が流失の危機に瀕する中、その保護を新聞で後押しし、自らも多くの仏教美術を収集しました。重要文化財「二河白道図」(鎌倉時代、13~14世紀)をはじめとする優品の数々は、のちに図録『玄庵鑑賞』にまとめて出版するほどで、傾倒・愛好する様子がうかがわれます。



美濃「志野茶碗 銘 朝日影」(桃山時代、17世紀) A
(□内のアルファベットは貸出写真記号)



重要文化財 「太刀 銘 吉家作」(鎌倉時代、13世紀) B



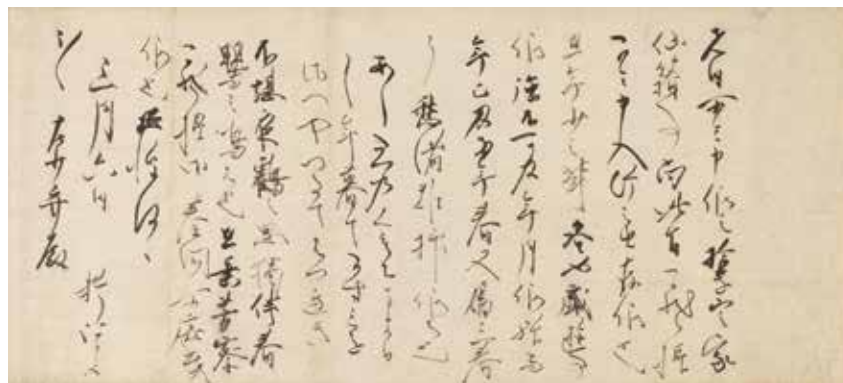
重要文化財 「病草紙 小法師の幻覚を見る男」(平安~鎌倉時代、12世紀) C



重要文化財 「二河白道図」(鎌倉時代、13~14世紀) D

村山は50歳を過ぎてから茶道に親しむようになり、コレクションは茶道具へと広がって、大正年間(1912~1926年)に一応の完成をみたと考えられます。

本展で紹介する重要文化財の藤原俊成「消息 左少弁殿宛」(鎌倉時代、文治2・1186年)、同じく重要文化財の(伝)周文「瀟湘八景図屏風」(室町時代、15世紀)、さらには曾我蕭白「鷹図」(江戸時代、明和4・1767年頃)などは、コレクションの豊饒さを示す重要な作例です。「東山御物」として知られる重要文化財の梁楷「布袋図」(南宋時代、13世紀)は、通称「踊り布袋」と呼ばれる名品で、茶席を飾ったとみられます。大名茶人・松平不昧も所持した「割高台茶碗 銘 長束割高台」(朝鮮時代、16世紀)など、多くの由緒ある茶道具もみどころです。



重要文化財 藤原俊成「消息 左少弁殿宛」(鎌倉時代、文治2・1186年) ㊦



重要文化財 (伝)周文「瀟湘八景図屏風」(室町時代、15世紀) 右隻部分 ㊦



曾我蕭白「鷹図」(江戸時代、明和4・1767年頃) ㊦



重要文化財 梁楷「布袋図」(南宋時代、13世紀) ㊦



朝鮮「割高台茶碗 銘 長束割高台」(朝鮮時代、16世紀) ㊦



「金梨子地葛紋唐草蒔絵衛府太刀拵」(大正時代、20世紀) ㊦

主な出展品

記号	指定	作者など	作品名	時代
A		美濃	志野茶碗 銘 朝日影	桃山時代、17世紀
B	重要文化財		太刀 銘 吉家作	鎌倉時代、13世紀
C	重要文化財		病草紙 小法師の幻覚を見る男	平安～鎌倉時代、12世紀
D	重要文化財		二河白道図	鎌倉時代、13～14世紀
E	重要文化財	藤原俊成	消息 左少弁殿宛	鎌倉時代、文治2・1186年
F	重要文化財	(伝)周文	瀟湘八景図屏風	室町時代、15世紀
G		曾我蕭白	鷹図	江戸時代、明和4・1767年頃
H	重要文化財	梁楷	布袋図	南宋時代、13世紀
I		朝鮮	割高台茶碗 銘 長束割高台	朝鮮時代、16世紀
J			金梨子地葛紋唐草蒔絵衛府太刀拵	大正時代、20世紀

※記号欄(A～J)は貸出写真記号

美に寄せる想い——村山龍平記念室（常設展示）

中之島香雪美術館では、村山龍平の生涯を紹介する常設展示「村山龍平記念室」を設けています。村山の足跡を大型年表や解説パネル、映像などでたどるほか、貴重な展示品や再現展示をおりませ、村山の美への想いを立体的に感じとれる構成となっています。

みどころは、神戸・御影の香雪美術館本館敷地内にある「旧村山家住宅」紹介コーナー。洋館、和館、茶室棟（玄庵）などの建物と庭園からなる広大な邸宅は、有力財界人が住まう関西屈指の高級住宅地として発展した御影にあって、明治・大正時代の姿をいまなおとどめる貴重な作例として、国の重要文化財に指定されています。

洋館の河合幾次、和館書院棟の藤井厚二ら、当時屈指の建築家が腕を振るった建物には、施主である村山自身の意向も随所に色濃く反映され、美を愛した村山の姿を彷彿とさせます。常設展示では、全景ジオラマ模型や映像で邸宅の全容を紹介するほか、洋館2階の居間を再現展示。豪壮な洋室に竹をあしらった和風意匠の家具・調度を置くというユニークな空間構成は、村山の好みによるものでしょう。洋館の内装全体を担当した小林義雄は、日本のインテリアデザイナーの草分けとして知られ、1階食堂の椅子の背に貼られた「MADE EXPRESSLY BY YOSHIO KOBAYASHI（小林義雄謹製）」のプレートからは、小林にとっても特別な仕事であったことがうかがえます。



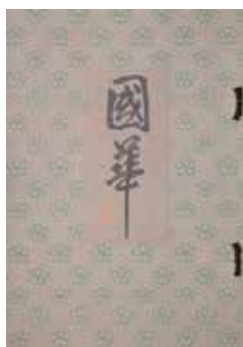
村山龍平



旧村山家住宅



村山龍平記念室 洋館2階居間の再現



国華 創刊号表紙

村山龍平と美術との関わりでは、『国華』特集展示コーナーも見逃せません。明治22年（1889）、岡倉天心らが創刊した『国華』は、現在も刊行を続ける美術雑誌として世界最古の歴史を誇ります。「夫レ美術ハ國ノ精華ナリ」と日本美術の復興を目指し、精巧な木版口絵や最先端のコロタイプ印刷を贅沢に使用した雑誌でしたが、すぐに行き詰まり、朝日新聞社の共同経営者で東洋美術への造詣の深い村山龍平と上野理一が全面的に経営支援することとなりました。ことに村山の『国華』への愛着は深く、新たに収集した美術品は同誌上でたびたび紹介されており、開館記念展でもその一部を展示します。

PRESS RELEASE

中之島香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

————— 報道関係のお問い合わせ —————

「中之島香雪美術館」広報事務局(ウインダム内)

TEL 03-6661-2510 FAX 03-3664-3833 Email kosetsu@windam.co.jp
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9-4F「中之島香雪美術館」広報事務局